

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月15日現在

機関番号：31302

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520068

研究課題名（和文） 古代アレクサンドリアの聖書解釈の系譜における貧困と富、禁欲の理解

研究課題名（英文） Poverty, Wealth and Asceticism in Alexandrian Exegetical Tradition

研究代表者

出村 みや子（DEMURA MIYAKO）

東北学院大学・文学部・准教授

研究者番号：20183874

研究成果の概要（和文）：ヨーロッパ世界における貧困や富、禁欲主義や社会福祉に関する基本的観念の成立について考察する際に、アレクサンドリアは特に注目し値する古代都市のひとつである。本研究では貧困と富をテーマとしたフィロン、クレメンス、オリゲネスの三人の神学者の聖書解釈の系譜をこの地における禁欲主義的諸派との関連において辿ることを通じて、キリスト教世界における貧困と富に関する基本的な理解がどのようにしてアレクサンドリアの地で形成され、発展を遂げたかについて具体的に明らかにした。

研究成果の概要（英文）：In order to consider the formation of the fundamental ideas of poverty, riches, asceticism and social welfare, ancient Alexandria is one of the cities worthy of special attention. In this research I trace the exegetical trajectory of three Alexandrian theologians (Philo, Clement, and Origen) on the theme of poverty and riches in connection with the exegetical method of various ascetic groups, and demonstrate how the fundamental Christian idea of poverty and riches was formed and developed in Alexandria.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合 計
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総 計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：宗教学・西洋史

キーワード：古代アレクサンドリア・聖書解釈・貧困と富・禁欲主義・フィロン・クレメンス・オリゲネス

1. 研究開始当初の背景

古代アレクサンドリアは後代ヨーロッパ世界の貧困と富、修道制的禁欲主義や貧者への喜捨といった弱者に対する社会保護制度の成立に大きな影響を及ぼした点で特筆すべき都市であるが、これまで貧困と富の観念に焦点を当てて古代アレクサンドリアに着

目した研究はほとんどなかった。こうした研究上の不足を補うことを目的としてこの研究に着手された。

2. 研究の目的

この研究は、貧困と富に関する聖書の主要なテキストを解釈した古代アレクサンドリ

アの聖書解釈の系譜(フィロン・クレメンス・オリゲネス)を明らかにすることにより、この地が後世の禁欲主義やキリスト教倫理、特に富の有効な使用に関する社会倫理の確立にどのような影響を与えたかを明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

この研究課題のために、アレクサンドリアで活躍した三人の聖書解釈者について、フィロンの『観想的生活』と『予備教育』、クレメンスの『救われる富者は誰か』と『ストロマテイス』、オリゲネスの『諸原理について』と『ケルスス駁論』などを手掛かりとして、貧困と富に関する彼らの聖書解釈の特徴を順次考察することにより、アレクサンドリアの聖書解釈の系譜が後代の富と貧困や社会福祉の理解にどのような影響を及ぼしたかについて明らかにするという方法をとった。

4. 研究成果

(1) 平成 21 年度にはクレメンスの『救われる富者は誰か』を考察して、彼が福音書のイエスの言葉(マルコ福音書 10:17-31)の解釈を通して教会共同体内の富者に対して富の有効な活用についてどのような主張をしたかについて明らかにした。

(2) 平成 22 年度にはフィロンの『観想的生活』を取り上げ、富を捨てて禁欲的生活を送るテラペウタイと呼ばれるユダヤの禁欲主義集団に関するフィロンの証言を取り上げ、これが後代の修道制の成立にどのような影響を及ぼしたかについて明らかにした。

(3) 平成 23 年度にはこれまでのオリゲネス研究をまとめて著作(『聖書解釈者オリゲネス』知泉書館)として刊行し、オリゲネスの聖書解釈の特徴や後代のオリゲネス論争の経緯について明らかにした。さらに旧約聖書の創世記 16 章に収録された「サラ・ハガル伝承」を当時の教育システムとの関連において論じたフィロン、クレメンスの議論を考察すると共に、これをパウロのテキスト(ガラテヤの信徒への手紙 4:26-29)と結びつけたオリゲネスの聖書解釈の比較検討を通じて、三者の属する宗教集団の社会層と教育との関わりを検討し、三者の聖書解釈の相違についても明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 7 件)

- ① 出村みや子「ヘレニズム世界の宗教思想とキリスト教——アレクサンドリアの多

文化主義的状況とキリスト教の進展——」、東北学院大学「オープン・リサーチ・センター整備事業」研究成果報告書、査読有、2012、85-100

- ② Miyako Demura, The Origenist Controversy and Church Politics, Studies of Religion and Politics in the Early Centuries, 査読有、2011、115-122
- ③ 出村みや子「古代アレクサンドリアにおける貧困と富の理解 (3) ——「神学の侍女 (ancilla theologiae)」としての哲学の位置付けをめぐって——」、東北学院大学キリスト教文化研究所紀要、査読無、第 29 号、2011、29-54
- ④ 出村みや子「古代アレクサンドリア神学における貧困と富の理解 (2) ——アレクサンドリアのフィロンの『観想的生活』を中心に——」、東北学院大学キリスト教文化研究所紀要、査読無、第 28 号、2010、43-62
- ⑤ Miyako Demura, Origen's allegorical interpretation and the Philological tradition of Alexandria, Origeniana Nona, 査読有、2009、149-158
- ⑥ Miyako Demura, Poverty and Asceticism in Clement and Origen of Alexandria, Prayer and Spirituality in the Early Church, 査読有、vol. 5, 2009、119-132
- ⑦ 出村みや子「古代アレクサンドリア神学における貧困と富の理解 (1) ——アレクサンドリアのクレメンスの『救われる富者は誰か』を中心に——」、東北学院大学キリスト教文化研究所紀要、査読無、第 27 号、2009、45-64

〔学会発表〕(計 3 件)

- ① 出村みや子「オリゲネスの著述活動と「テキスト共同体」」、日本宗教学会、2011 年 9 月 3 日、関西学院大学
- ② Miyako Demura, Origen and the exegetical tradition of Sarah-Hagar motif in Alexandria, 16th International Conference on Patristic Studies, 2011.8.12, Oxford
- ③ Miyako Demura, The Origenist Controversy and Church Politics, The Six Prayer and Spirituality in the Early Church Conference, 2010.7.8, Australian Catholic University, St Patric Campus (Melbourne)

〔図書〕(計 1 件)

- ① 出村みや子『聖書解釈者オリゲネス』、知泉書館、2011、291

〔産業財産権〕

○出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計◇件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

出村 みや子 (DEMURA MIYAKO)
東北学院大学・文学部・准教授
研究者番号：20183874